



ガラス廃材再生し地域貢献

ミラクルソル協会 原 裕理事長に聞く

ミラクルソル協会(東京都中央区、03・5823・6881)が今年で創立5年目を迎えた。ガラス廃材などを原料とし、その特性を生かした新素材「ミラクルソル」の幅広い分野の普及活動を通じて地域社会整備に寄与するとともに、環境保全に貢献することを目的に設立した協会。スタートして期間は浅いが、ミラクルソルを利用した工法が全国的に採用されるなど急進展を見せている。技術評価も話題を呼び、国際的にも脚光を浴びるようになってきている。原裕理事長(日本建設技術社長)に今後の事業活動などを聞いた。

「ミラクルソル工法が 目的に応じて、いろいろな全国的に注目を集めている。例えば廃材をいったん微粉砕し、その後溶融、発泡、焼成などの工程を行って急冷して、発用できないので、用途や 泡タイプ廃ガラスの素材

を創り出す。この発泡廃ガラス材を建設現場などで盛土材として利用すると従来の普通土に比べ5

倍程度軽量化でき、多孔質構造のため地下水や雨水に対し排水性が良く盛土の安定性を保てるほか、有害物質の溶出の心配もない特性が得られる。しかもリサイクル可能なので、今後いろいろな用途に使用されるのではないかと期待している

「研究開発の成果については、さまざまな学会で発表していますね。『土木学会や地盤工学会、廃棄物学会、農業土木学会などで発表させて

る。そのためにさらに基礎的な研究開発、用途開発を進めていかなければならない」

「研究開発の成果については、さまざまな学会で発表していますね。

川・湖沼の水質浄化への応用方法について発表を行う予定だ」

「ミラクルソル素材が持つ特性を生かし、吸水性のものは岩盤を含めた斜面緑化や屋上・屋外庭園などの保水材として、

盛土・保水・地盤改良・雑草防止など

土木・農業に利用促進



河川などの水質浄化に役立つことも実証した…と原さん

もらっている。また官公庁向けにミラクルソル工法技術に関する講習会や現場見学会なども開き、工法普及に努めている。最近では国内学会で発表した論文が海外でも関心を呼び、7月には英国で屋上緑化への有効利用について、9月にはタイで河

記者の目

顧客の啓もうをミラクルソルが注目されたのは環境に優しいという時代ニーズに合致したことのほか、その特性が持つ優位性があげられる。さまざまな用途向けに開発した工法、素材に関する特許が多いのに加え、(横浜総局長・高橋二三夫)

顧客の啓もうを

ミラクルソルが注目されたのは環境に優しいという時代ニーズに合致したことのほか、その特性が持つ優位性があげられる。さまざまな用途向けに開発した工法、素材に関する特許が多いのに加え、(横浜総局長・高橋二三夫)

学会発表や技術講習会、見学会の開催など、地道な活動も評価される要因。現在、会員数は製造業者らの正会員、特許保有者ら特別会員含め27社(個人含む)だが、今後はユーザーや学会関係者らをパートナーに巻き込んだ啓蒙・普及活動が望まれる。